

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)は、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。
新約聖書 ヨハネ11:25-26

発行所 奈良県生駒市門前町七一四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九〇一六六四二番

発行人 ファアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円



イースターエッグ

ともに

河野 進

朝と共に喜びが来る(詩30・5)

平熱と共に喜びが来る

産声と共に喜びが来る

慈雨と共に喜びが来る

収穫と共に喜びが来る

平和と共に喜びが来る

罪の赦しと共に喜びが来る

イエスの復活と共に喜びが来る

河野 進詩集「旅」より



質問箱

問 寝る間も惜しんで勉強してきましたが、目指した大学受験には失敗しました。両親は一年浪人をして再挑戦を勧めますが、どうしてそんなに勉強しなければ生きてゆけないのですか。

答 江戸末期、アメリカの教育事情を調査に来ました。まだ公立の学校が無い時代、町の至る所に寺子屋を始め町の有力者による教育機関があり、多くの子どもが「読み、書き、そろばん」を習い、青年達は蘭学(医学)、儒教を学んでいることに驚いたのです。明治の開国と共に西欧の進んだ文明を取り入れ、短期間に日本が近代化できたのは、江戸時代から庶民教育に注いだこの情熱があったからです。今日、世界の科学技術の進歩はめざましく、あらゆる分野で、激しい研究開発競争の時代となっています。日本の将来を担う若者達が、高度な教育、創造力を身につけ、新たな発明、発見、斬新なアイデアで世界をリードして欲しい、これは個人の願いを超えて、日本が抱く君たちへの期待です。そのエネルギー、情熱と具体的な知恵は、宇宙の全ての法則と原理、生命を創造し、今も保つておられる神の存在を知ることによって湧き上がってくるのです。聖書に「神は大いなることを行つて測り知れず、その奇しいみわざは数えきれない。(ヨブ9・10)とある通り、万物創造の神を信じ、宇宙に秘められている無尽蔵の知識を教えられ、生かして欲しいです。私自身、クリスチャンになる前、学校や本で学んだ沢山の知識の内、どれが正しいのか、どれが間違いか、知識の全体像がはっきり見渡せず、ただ頭の中に雑多に詰め込まれている感覚でした。ところが聖書を読み、創造の神の真理が分かったとき、全てが整然と秩序だつて理解でき、苦手だった話すこと、文章を書くという能力が格段にアップし、科学者にはなりませんでしたが、ラジオ、テレビ、新聞、書籍、講演で人生の真理を語る者とされたのです。あなたも聖書を知り、希望を持って勉強に励んでください。(見玉 博之)

親と子のしあわせ

390

四月になると、我が家の子どもたちも進級します。中学二年、高校二年、離れて生活する長男も大学三年です。

先日末娘が、泣いて帰ってきました。「卓球で負けたの?」(なかなか勝てずよく泣きます)。「違う」。わたしの胸で中学の娘が泣きました。話を聞くと、クラブの同級生が八対二でもめているとのこと、うちの子は二人の方です。話を聞いてみると、問題は些細なことからは始まったことがわかりました。中には、事情がよく分からない人もいます。うのですが、娘は毎日泣いて帰ってきました。私は話を聞いて祈りました。学校の先生にお話ししようかとも思いましたが、何とか自分たちで解決してほしいと見守っていました。上の子にはなかつたことで、私も戸惑いました。娘は朝、「今日は誰か向こうにつくか、誰か何を言うか、怖いし信じられないから、部活に行きたくないな」と言います。「行かなくていいよ。先生に言おうか?」ただ、みどり(娘の名)は仕返しをしたり人に悪口は言わない



よ。あなたは光の子だから。神さまは知っていてくださるよ。休んでいいよ」と言いましたが、部活に行きました。ある日は先輩に優しい言葉をかけてもらい、友達と慰めあっていたようですが、その内、子どもたちそれぞれが、このままではいけないと感じ解決しました。自分たちで解決できてよかったです。娘も私も、神さまが助けてくださったと思えました。人から嫌なことをされたり言われたりしたときに、仕返しをしたり言い返したりしても解決になりませんし、かえってエスカレートします。言わないとわからないこともありますが、うまくいかなることもありません。もめごとが無いことを願いますが、ぶつかり合うことで、人は相手の考えや気持ちを知り、互いに救い合い、受け入れ合う喜びを経験するのもかもしれません。「互いに人を自分よりもすぐれた者と思ひ……自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」(ピリピ2・3、4) (相原 幸紀美)

*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

I面写真：高原幸男

●質問箱への投書(100文字以内)よろこびの泉に関するお問い合わせは lzumi@japanmission.org まで

押さえきれない喜び

大津市 城谷 加代子

輪袈裟を首に掛けて毎朝熱心にお経を唱え、周囲の人たちから聞いたところ、ある時は住職の替わりをも勤めていたという父が、肺結核で入院中クリスチャンになり、退院してきたのです。その父の通う教会で十字架の話聞いた私の心に、大きな変化が……。



▲チャーチコンサート

私は一九四三年、長崎で生まれました。すでに上には兄と姉がいて時は戦時中、父が「また女か」と言ったと母から聞き、私は要らない女の子だったんだと布団を被ってよく泣きました。また私を一番に愛してくれる人はいないと淋しく思ったものです。

私の娘には五人の子どもがいますが、四歳の末っ子(陽)が「おばあちゃん、このなかでだれがいちばん好き」と尋ねます。「勿論、陽だよ」と言うと、嬉しそうにニココリします。自分を一番愛して欲しいというのは、全ての人の心にある深い願望だと思いました。その「要らない女の子なんだ」と泣いていた私をじっとご覧になって、「そうではないよ、あなたは私の大切な娘、わたしは永遠に変わらない真実な愛で愛しているよ」と語って下さる、そんな素晴らしい神さまとの出会いが待っていたのです。

父が突然クリスチャンに

私が高校一年の時、父が結核で入院しました。父は浄土真宗の熱心な信徒で、毎朝、輪袈裟を首に掛けてお経を唱えるのが日課で、その後、神棚

主の「復活をお祝い申し上げます」。

救われた喜びは大きく、仕事中心の内から喜びが沸き上がって来て押さええることができず、それまでは昼休みになると、歌ったり踊ったり喫茶店へ行ったりしていたのを一切止めて、聖書を読みはじめました。ある日、昼食をしていると後輩の女の子が

「いつも読んでおられるのは聖書ですか」

と尋ねたので、聖書を開いてイエス様の救いについて話しました。すると、その子がその場でイエス様を信じる祈りをしたのです。次の日、彼女は別の人を連れて来て、その人も信仰告白をし、次々と四人の同僚が信じたのです。彼女らに聖書と聖歌を買って貰い、五人で昼休みに聖書を読むようになりました。

しかし、救われて間もない私は、彼女たちの疑問や質問に答えることが出来ず、その頃からもつとイエス様を知りたいとの願いが強くなり、神学校への道を考え始めました。ある日、恐る恐る宣教師夫人に話すと「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、且つ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ2・13)との御言葉を聞かれ「それは神さまの願いですよ」と教えていただきました。

退職する日、一人一人に挨拶し、辞める理由を尋ねる方に「なぜか？」というキリスト教の読み物を差し上げ、為替の係長には別室で三〇分ほど、救われた喜びをお話する機会が与えられました。

退職後一年間は宣教師夫妻の下で生活しましたが、どんな時にも神さまの言葉を信頼して、愛の実践に生きるお二人の歩みは、その後の私の生き方のモデルとなりました。翌年二三歳の時、後に私の夫となる城谷と私の父と共に神学校へ一期生

として入学。五年間の学びと訓練を受け、卒業と同時に結婚し、夫婦で三九年間、二つの教会に仕えました。

振り返る恵み

結婚し、長女が生まれて8カ月の頃、夫の右足の痛みが酷くなり、診察の結果、大腿部に脂肪の塊が点在していることが分かり、それを取り除く手術をしました。ところが医師のミスで神経が切られてしまい、激痛で再手術。2週間の予定が5カ月半の入院になりました。私は娘を背負い、お腹に2番目の子を宿しながら、教会の仕事と病院往復の日々を過ごしました。

夫がようやく退院し松葉杖生活の中、長男が生まれ、4カ月目に今度は私が卵巣出血で入院手術と、たび重なる試練に見舞われましたが、その時も「その人は悪い知らせを恐れず、主に信頼して、その心はゆるがない。」(詩篇112・7)という神様の御言葉が私達の支えとなりました。多くの失敗も、手術、入院、貧困、いじめ、非難中傷、霊の闘いなど、数々の試練で涙の谷を幾度も通りましたが、これらすべてを泉の湧くところ、祝福と変えて下さったのは、私のために死んで蘇り、今も生きておられる主イエス・キリストです。

今年の五月で信仰生活五三年になりますが、私の信じる神、主は何と恵み深く憐れみ深い真実な方であろうかと驚くばかりです。まだ信じて間もない頃、人の言動に傷ついて泣いて祈っていた時、聖書の言葉が目飛び込んできました。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。主は私の助け手です。私は恐れませんが、人間が、私に対して何ができません。」(ヘブル13・5、6)

を拝み、神社の御札や御守りなどを大切にしていた人でした。ところが、入院中に日本ミッション病院伝道の働きにより聖書の言葉に触れ、生きておられる真の神イエス・キリストを信じ洗礼を受け、クリスチャンとなって退院したので、父の変身ぶりに家族は皆驚きました。父は平安そのものでした。

当時、世俗的な事のみ関心を持っていた私にとって、信仰は無縁なものに思われました。高校卒業後、銀行に勤務した私の当面の目標は、恋愛と結婚だったので、恋愛をしても実ることはありませんでした。それと言うのも、お互いに与える愛ではなく、自己中心の愛だったからです。そこには平安がなく失望あるのみでした。

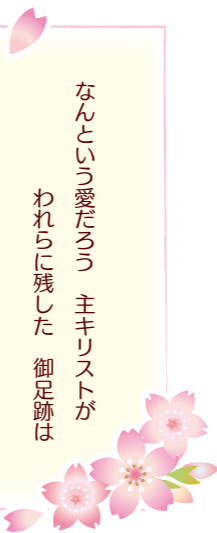
その頃、父が近くに住む米国人宣教師の開拓伝道を手伝っていた関係で、私は誘われて教会へ行くようになりました。聖書の話は理解できなかったのですが、宣教師夫妻の愛に溢れた笑顔と生き方に強く心が引かれました。そして私が二歳になったばかりの二月、特別伝道集会に誘われ、そこで神の御言葉が、私の罪の身代わり十字架に架かり、死んで下さったのだというのを聞きました。私を罪と死と滅びから救うために命を捨てて下さり、私を誰よりも愛して下さる方に出会ったのです。帰り道、暗い夜道を歩きながら私は一人で祈りました。「イエス様、今私の心の戸を開けますから、私のお入り下さい」と。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたか。だけれども、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」(黙示録3・20)。それから三か月後、両親と私、弟の四人で洗礼を受けました。

この日以来、神の言葉は生きていて力があり、あらゆる場合に助けとなることを知りました。

また、聖書は私の心を照らす光で、うわべばかりを気にして歩んでいた私の心の内側の、汚れた思いや愛のない言動で人を傷つけていること、プライド、気づかない罪の部分を明らかにし、その一つ一つを告白して悔い改め、十字架の赦しを経験しました。

父から始まった救いは、母、兄、姉、私、弟と家族に及び更にそれぞれの娘、息子たちに、そして孫世代にまで広がっています。すべての人が天地方物を創造し、私たちに命を与え、生かして下さる神さまの愛を知り、永遠の滅びから永遠の命に移されますようにと祈る日々です。



なんと愛だろ、主キリストが
われらに残した 御足跡は
どんな低い者も 愛しいたわり
どんな罪とがをも 清められた
十字架についても 愛し続けて
彼らの赦しを 求められた
卑しいわれらも かかる愛に
満ちて他の人 なくさめたい
(聖歌 一五一番)